

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372800799
法人名	社会福祉法人 恵寿会
事業所名	グループホーム グリーンヒル みふね
訪問調査日	平成 19 年 11月 26日
評価確定日	平成 19 年 12 月 5日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成 19年 12月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	4372800799
法人名	社会福祉法人 恵寿会
事業所名	グループホーム グリーンヒル みふね
所在地	熊本県上益城郡御船町木倉1720-6 (電話) 096-281-7787

評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本県熊本市上通町3-19-402		
訪問調査日	平成 19年 11月 26日	評価確定日	平成 19年 12月 5日

【情報提供票より】(平成19年 11月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年 4月 1日	平成15年 3月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人		
職員数	13人	常勤	13人, 非常勤	0 人, 常勤換算	13 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(11月 26日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	1 名	要介護2	5 名			
要介護3	10 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84, 9 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	本庄内科病院 益城病院 入江歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれた丘にある複合福祉施設の一角にあり、天然温泉施設やグランドゴルフ場にも隣接した立地条件に恵まれたホームである。有資格で経験豊富な常勤職員で構成されており、落ち着いた穏やかな生活が送られている。毎日の食事や行事食は栄養のバランス・彩り・味にも定評があり、入居者やその家族・推進会議のメンバーにも好評のようである。各ユニット間の独自性と協調性も程良く、近隣としての関係も無理なく構築されている。職員の研修に対しても奨励されており、制度も整備されている。今後とも、地域福祉拠点としての更なる発展に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議を設置したことによって地域の年間行事や催事についての情報を得ることができ、参加することで交流の機会を持つことができるようになった。地域の保育園や小学校との交流も少しずつ行っている。家族との関わりについては、外出や行事、カンファレンスへの参加を呼びかけている。今後の取り組みが期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義については全職員が理解しており、日頃の業務を振り返る機会として捉え、ユニット毎の職員で話し合い主任と管理者とでまとめた。改善項目についても、提供サービスの向上と自己のステップアップに役立てようとする取り組みの姿勢が窺えた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開催されており、誕生会への案内も行いホームの生活への理解も促したうえで意見交換をするなどの工夫がされている。会議の開催によって行政との連携が図れるようになっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月の活動予定表を送付したり、家族会や面会時には近況を報告している。電話での連絡も随時行ない、要望が出しやすいような配慮もされている。今後は介護計画や見直しにも家族の意見や要望が反映されるための仕組みを構築されることが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会加入や地域行事への参加をとおり地域との関係づくりを大切にしている。ホーム行事への参加呼びかけや幼稚園との交流にも取り組んでいる。今後は運営推進会議を通じて地域貢献事業(介護教室や認知症講座など)にも取り組んでいくことが期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく、楽しく、優しく」の理念のもと、その人らしく喜びや生き甲斐のある暮らしを支援することを自覚し、尊厳ある介護を実施している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲示したりミーティング時に毎朝唱和したりして、理念の確認に努めている。家族会や交流会の中でも理念を職員と共に共有してもらうような働きかけをしている。		地域密着型事業所としては、地域で担う役割も大きいいため、今後は地域への理念の啓発も望まれます。
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、会合等にも参加している。地域行事や敬老会、近隣の幼稚園の運動会等にも出来るだけ参加している。		地域の方からの訪問は立地条件から困難も予想されますが、ボランティア育成などとおして、ホームを訪問してもらえるような取り組みも期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は自己評価や外部評価の意義を十分に理解している。結果は全員で検討し、実現可能なことから改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの近況・活動報告・事業計画等や自己評価・外部評価の結果・改善取り組み等の報告を行なうことによって、委員にはホームの理解促進をはかっている。また誕生会などの生活行事にも参加してもらっている。		

グループホーム グリーンヒルみふね

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPO)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の開催によって行政との情報交換の機会が増え、双方の関係が近くなったと感じられる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に必要な連絡事項について相談し、管理している金銭についても報告している。必要に応じて電話連絡も行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年に2度開催し、意見や苦情、相談を聞く機会を設けている。面会時にも話しやすい雰囲気作りに努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	若干の異動はあるものの、入居者への影響がないような配慮や新しい関係作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は様々な外部研修に参加し、復命書の提出や報告会を行っている。月1回の会議の際には勉強会も開催している。向上計画制度も導入し、3ヶ月毎の目標を設定した、介護実践もおこなっている。併設施設での研修会にも参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回上益城郡内のGH連絡協議会に参加し、情報交換や勉強会等を行い、サービスの向上に努めている。相互訪問も行い、ネットワーク作りにも意欲的である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には訪問調査を行い、本人・家族の思いや要望・意見を聴き取り、ホーム見学や生活体験もしてもらうようにしている。他の入居者や職員とお茶を飲んだりしながら、雰囲気に慣れてもらってから、安心して入所できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者への一方的な支援業務を行うのではなく、入居者間の関わりを大切に、時間をかけた信頼関係構築を支援している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身体状況に関する心配、家族のこと、居室の模様替え等本人の不安や希望に対して十分に話し合いをしながら対応している。意思表示が困難な方は、家族からの情報や表情や態度から汲み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や希望を推察しながら、家族や職員の意見や情報を反映した介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行い、状態の変化があれば適宜カンファレンスを行いケアの変更を行っている。家族にも連絡しているが、計画の変更までには至っていない。		介護計画実施の評価や定期的なモニタリングを行なうことで、計画の見直しに反映できる仕組みが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の状況や職員の勤務体制と連動させながら、通院支援などの対応を柔軟に行っている。認知症ショートステイやデイサービスの要望も、できるだけ受け入れる予定にされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外でも、入居前のかかりつけ医の医療を受けられる体制にし、医療機関との連携は重視している。職員で通院介助も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が予想される場合、事前の話し合いや検討会を重ねながら、対応や方針を共有している。		終末期の対応については、ホーム方針の明文化や職員の研修・マニュアルの整備等が望まれます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の人格を尊重し、プライドを損なう声かけや対応は行わないよう配慮している。また、個人情報に対する守秘義務についても職員はよく理解している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりに合った対応を行い、その方の思いや希望に沿うような支援をしている。決まりや職員の都合を優先させず、臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや季節感を加味しながら、献立は職員が立てている。調理や買い物、後片付け等は入居者と共に行ない、職員と一緒に摂る食事の時間を大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	天然温泉を引いてあるため、入居者毎の希望で毎日でも入浴でき、楽しみにもされている。拒否の方にはあまり無理強いをせず、本人の様子をみて声かけに工夫し、清拭やシャワー浴で対応する場合もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活において持てる力や能力を活かした支援を行い、役割や楽しみごとにつないでいる。掃除、食材刻み、洗濯物たたみなど役割の定着も見られ、張り合いのある生活が送れるような支援を心がけている。体操や言葉遊びを取り入れ、身体能力低下防止や脳への刺激を与えるような取り組みも楽しめるよう取り組ん		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺への散歩や買い物などには、職員と一緒に外出している。ドライブや外食も取り入れ、メリハリのある生活を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害や身体拘束についても正しく認識しており、日中は玄関及び各居室は施錠していない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に昼・夜を想定した避難訓練を実施している。また、併設事業所全体の訓練や勉強会にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重チェックを行い、健康状態の把握に努めている。野菜を多く取り入れたバランスの良い食事を提供し、水分補給に関する配慮している。必要な方には水分・食事量の記録もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビング・台所などの共用部分には、季節感や家庭的な雰囲気への配慮がされている。手作りの作品や写真を掲示することで、入居者ばかりでなく訪問者への話題提供にもなっている。くつろぎの場所も随所に確保されており、音量や光量・換気・臭気にも細かい配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や自宅で使用されていた生活用品やテレビなどが持ち込まれ、過ごしやすい環境作りが支援されている。		入居者によっては持ち込みの少ない部屋も見受けられます。家族への協力依頼を行い、居心地の良い居室環境作りへの支援が期待されます。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム グリーンヒルみふね1号館
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県上益城郡御船町木倉1720-6
記入者名 (管理者)	西川 八寿子
記入日	平成 19 年 11月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	(明るく、楽しく、優しく)の理念に込められた限りない人間愛と、生きていく喜びや生きがいを幅広くサポートしていくことへの奥深さをふくんだ理念である。	職員一人ひとりが地域に対する理解を深め、地域住民としての認識を強化し利用者一体となり、住民としての役割を担っていく。理念を意識し共有することが、利用者に対する尊厳であることを再確認する。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	事務室に大きく掲げ毎朝のミーティング時に全員で唱和している。GH職員として又、一社会人としての心構え、姿勢を認識すると共に理念を日々の目標として意識し実践できるよう取り組んでいる。	日々のケア内容と理念のもつ意味や整合性をあらためて認識し合い、理念の共有と自らの業務・ケアについて振り返り方向性を見直す。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域の中での介護者教室、懇談会、運営会議等において、GHの運営や方針と共に理念について伝え理解をいただけるよう取り組んでいるが充分とはいえない。又、家族会や交流会の中で施設の目標とする理念を家族と共有していけるよう伝えている。	地域密着型施設とし、GHの役割、運営方針と共に、理念についての理解を得られるよう家族や地域の中で活動を広げる。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている</p>	GHの立地上気軽に立ち寄っていただけるような付き合いは出来ていない。日常的に行き来できるような交通支援や、顔なじみになっていただけるような交流の場を積極的に推進していきたい。	気軽に立ち寄ってもらえる立地がないため、身近に声を掛け合うことは困難な状況であるが、地域との触れ合いを深めるため地区行事、会合への参加、リサイクル活動等の参加により顔なじみの関係作りに努力したい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に加入し、回覧、会合参加、地域行事等参加するよう努力している。地域内から勤務している職員もいるため情報も得やすく回覧等も活用している。	個人的なつきあいは現状においては困難であるが、地域行事・地区会合・リサイクル活動等への参加や、園児・児童との交流において地域の中の一員として生活していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在実施しているが、まだ充分とはいえない。地区の高齢化状況を踏まえると、もっとお役に立てる何かがあるのではないかと考えている。地域とGHが協働して地域の方々の暮らしを支えられるような方策を考えていきたい。		認知症介護の発信拠点施設としての役割を踏まえ、経験や知識を活かし、職員の個性を発揮しながら、地域高齢者の生活の活性化や困り事の相談、介護者教室等、地域の会合を通しながら取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己・外部評価の意義は全員が十分に理解できており努力目標・改善項目については全員で検討を重ねながら、実現可能な事から改善の方向へと取り組んでいる。		外部評価改善項目について、事業所の特性を活かしながら、職員全員が意識し、サービス向上と、自らのステップアップのための指針とし具体的に話し合い、取り組みを行う。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではGH運営全般における報告や自己・外部評価の内容、改善目標等について詳細に報告している。当GHの現状を知っていただき、協力体制作り賛同していただくと共に、いただいたご意見はスタッフ間に周知しサービス向上に努めている。		外部評価についての報告や質疑、今後の取り組み課題等について活発な意見が得られるような進行をし、有意義な会議としていきたい。議題についても多岐にわたる内容を計画していきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	これまで気軽に行き来することに躊躇する面があったが、運営推進会議をきっかけとして市町村担当者との情報交換等が以前より図れるようになってきている。今後双方の行き来する機会をさらに増やし、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。		運営推進会議の開催により、市町村とのかかわりを深めるための良い手段が得られたと思う。担当者や、地域包括支援センターとの連携が、サービス向上のための重要な手がかかりとなり、連携強化に取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	県内、又上益城部会等において研修会に参加している。現在対象となる利用者はいないが職員全員の学びを深めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束についての研修会参加や、勉強会を開くことにより職員全員が周知し基本的な事項として虐待防止を実施できている。家族にも認知症の理解をいただくことで防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項や契約内容、GHでの生活全般の説明を充分に行っている。家族の質問等に関しても入居前後随時丁寧に対応し理解を得ている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉をしっかり聞き取り、意見や苦情については本人と話す時間を充分にとっている。思いに添った生活が出来ることを大切にしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時及び必要と思われる時は報告・連絡・相談を随時行っている。特に面会時はできる限り時間を取り、近況報告を行い、情報共有に努めている。金銭管理については、毎月収支報告を行い、報告書には了承のサインをいただいている。</p>		<p>家族との連携において詳細な報告、必要な連絡・相談等、随時行うと共に、コミュニケーションを大切にしながら、利用者・家族・職員の柔軟な関係作りによる温もりのある生活を提供したい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>これまで、運営全般に関する意見は殆どいただけていないが、家族会、又個々の話し合いの中でお互いの立場を排除した自由な発言が得られるような関係作りを行っている。</p>		<p>家族会交流の場や懇親会、職員・家族との研修旅行、利用者・家族・職員三者の交流を計画し意見を得る機会としたい。又、一泊旅行を家族と相談しながら実現したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>施設全体での勉強会・GH勉強会・主任会議等で、運営に関する現状や、今後の展望について職員全体が把握しており、それぞれの貴重な意見や提案については反映できていると思っている。</p>		<p>運営全般において、職員の発想や提案を反映することは、一人ひとりの職員の奮起・向上となるため、今後も自由な発言のできる環境を大切にしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>月間行事や予定外の催事、利用者の状態変化、ご家族の申し出があった場合など随時の話し合いを行いながら、常に柔軟な勤務調整を実施している。</p>		<p>目標達成のための全員で努力する姿勢と、職員間の良い関係作りをさらに強化していきたい。また施設内外の研修参加により自己啓発を促していきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>特養の併設であるため、若干の異動はあるが個人的な理由による退職はほとんどない。利用者へのダメージは無く、馴染みの関係は保たれている。</p>		<p>GH上益城部会に定期的に参加し、情報交換を行い、日々の取り組みの中で生かしている。町内の他のGHとの交流する機会をさらに増やし、近所であるがゆえのメリットを生かしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成19年度より向上計画制度を導入。3ヶ月毎にGH1号館、2号館で目標を全員で立て、進捗状況をお互いに確認しあっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城郡内のGH連絡協議会において2ヶ月に一度集会を設けている。情報交換を行ったり、地域周辺マップを作成したり、懇親会を開いたり、等々意欲的に取り組んでいる。相互訪問も行い良いネットワークが作られているのではないかと考えている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	町主催で定期的開催されている職場対抗ソフトボールやバレーボール大会に参加したり、2年に1度の職員慰安旅行を行っている。職員一人ひとりのヒアリングを年に1回実施し、必要に応じて話し合う機会も設け、それぞれの悩み等の把握に取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	サービス向上計画における目標シートによりそれぞれがいい点、わるい点、改善しなければならない個所を把握することで自己をより高められる体制を作っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に訪問調査を行い、本人・家族の思いを傾聴し、何を必要とし、どのような生活を望んでいるのかを見極め、入居後の生活に反映・実現できるよう受け止めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人・家族の現状を把握し、その中での問題や希望について話し合いを充分に行い、安心して利用できるためのプロセスを重視している。又、信頼関係につながる傾聴する姿勢や雰囲気作りを大切に良い関係作りに努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・担当ケアマネ・家族・母体施設代表者と共に話し合いを持ち、又、関連施設との連携を取りながら、まず何が必要かを見極めながら総合的に対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人、家族に見学や体験という形で様子を見て来て頂き他利用者や職員とお茶を飲んだり、会話などしてもらいながら雰囲気に馴れてもらう工夫をし利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者への一方的な支援業務ではなく利用者一人ひとりの関わりを大事にしながら共に笑い楽しむ時間を共有している。信頼を深め互いを知り合う心の通う関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者だけでなく家族とも心の通い合う関係を築き、双方が利用者の支えになることが大事であることを理解しており、実行している。気軽に話し合える関係ができていのではないかと考えている。		利用者のより良い暮らしのために、家族との関係はもっとも大切である。悩みに共感したり、喜んだりしながらも節度ある関係と、信頼を大切に、気軽に話し合える関係作りにも今後も努力していく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	長年の家族間の関係を把握し、家族のそれぞれの思いを理解し、本人にとってよりよい家族関係が維持できるようなサポートが大切だと思っている。出過ぎず、控過ぎずを考慮しながら良い関係作りを行っている。		認知症の進行に伴い、家族関係が希薄にならないよう、行事への参加や可能な範囲での外出、外泊の協力を得る。又、家族、利用者間のより良い関係作りのパイプ役として関わって行きたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域商店への買い物や、地区行事に参加することによる顔見知りの方々とのふれあいを大切にしている。又、外出時は馴染みの場所や知っている町並みを通ったりして感情へのはたらき掛けを行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりが家族の一員としていたわり合う雰囲気を大切にし、職員の関わりを通してそれぞれの存在感を感じていただくことも大事な役目だと思っている。利用者間の関係を把握し、グループ活動を行ったりしながら良い関わりが維持できるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族からの問い合わせ等に関してはもちろんのこと、その後も友好的な関係を保っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身体の状況に関する心配、家族のこと、居室の様様替え、片付けなど本人の不安や希望に対して十分に話し合いを持ちながら対応している。受容し共に行動、共感することを大切にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のこれまでの生活全般の情報や好み、嗜好に至るまでを全体像を理解するための必須事項として常に新しい情報収集に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の健康チェック、心身の健康状態に配慮しながら変化を見極め、一人ひとりの残存機能を最大限に活かしながらできることへの関わりを職員全員が周知している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や関係者をふくめた話し合いは実施できていないため今後の検討課題である。計画作成については本人の意向・希望を察知し家族や関係者の情報を活かすと共に職員間の情報を反映したプラン作りを行っている。		職員全員がケアプランの重要性を再認識し、本人の状態の変化に対する気づき、アイデアや意見を反映し、利用者の生活向上と、職員間のお互いのケアの指針として活かして行く。今後、家族への話し合い参加を願い、意見を反映したプラン作成に努める。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に関係なく、必要に応じ随時話し合いを行い家族にも連絡・相談を行っているが、新たな介護計画の作成には至っていない。		現状に即したプランの見直しと新たなプラン作成を実施して行きたい。利用者の今を反映した生きたプラン作成を行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個人ケースに、日中・夜間帯を色分けし記録している。職員間の連携を充分にとり統一した介護が実践できるよう申し送り帳の活用も行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のその時々々の状況、職員の勤務体制と連動しながら、可能な限り要望に沿った柔軟な対応を行っている。		自由に活動ができ、柔軟な対応が可能なGHの特性を更に活かし、家族の要望や利用者の思いをできる限り実現していきたい。(墓参り・自宅訪問等)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している			
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の経済的な事情によりGH利用が困難となった利用者については、家族・事業所を含めた話し合いを行い、特養に移動していただいた経緯がある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ地域包括支援センターとの協働はできていない。		今後努力すべき課題である。職員全員が地域包括センターについての知識を深め、必要に応じ相談したり常に情報を提供できる関係作りを行いたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力病院外においても、Drとの情報交換を行い適切な医療が受けられる体制ができています。希望時の受診、急変時の受診、定期的な回診等、常に医療機関との連携を重視し、特別な場合を除いては職員が受診支援を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の協力病院と連携をとり、利用者の変化や必要に応じた受診を行っている。担当Drと家族を含めた話し合いの場はいつでも設けられる体制がとれている。必要な指示・助言もその都度受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	GH職員として看護スタッフが配置されており、又、母体施設の看護師とも連携し、必要に応じ応援を得ている。日常の変化にも迅速に対処でき、相談と助言を得ながら的確な対応に努めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院開始から退院までの過程のみでなく日常において、看護師を中心とし病院関係者との情報交換による連携に努めている。又入院前後の病状経過についてはDr・家族・職員による話し合いの場を作り現状把握と病状共有に勤めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が予想される場合は、事前に家族・かかりつけ医・施設の話し合いを設け検討を重ねながら状況に即した対応を実施し、方針を共有している。		疾病については、現在かかりつけ医・母体施設と連携を得ながら対応を行っているが、今後予想される重度化に対しては三者の十分な話し合いのもと、方針を共有し誠実に対応していきたい。終末期は家族の意向を大切に、主治医の指示を得ながら、今後の方針についての話し合いを具体的にしていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の状態の変化により施設内でできること、できないことを見極め、看護師を中心にして家族・かかりつけ医との連携を取りながらチームケアを実施している。介護と医療の的確な見極めによる本人へのより良い生活支援は、今後において重視すべき課題であると思っている。		かかりつけ医との連携による終末期の暮らしが、利用者や家族にとってより良いものとなるために話し合いを重ね、GHにおいて出来ることの支援を見極めながら、重度化、終末期に向けた取り組みを話し合っていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化によるダメージを最小限に防ぐため、事前の訪問による生活状況の把握、本人に関わる関係者との情報交換を行っている。異空間に対するダメージを防ぐための居室作りや、寄り添うことによる心の安定を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの人格を尊重し利用者のプライバシーを損なう声かけや対応は行っていない。又、個人情報の守秘義務についても理解しており職員・家族間でも了承している。</p>	<p>常にGH職員としての資質の向上を意識し、尊厳と思いやりのある関わりを基本とした誠実な対応のできる職員になりたい。高齢者に関わる上での当然の職業マナーとして、自分の言葉に責任を持ち、お互いに高めあっている職場でありたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせた声かけをし、思いや希望を引き出せるような対応をしながら自己決定につながるよう支援をしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人ひとりの能力に合った対応を行い、その人のペース合わせながら、気持ちを感じ取り満足して過ごせるよう支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>おしゃれや身だしなみについては利用者本人の意向を尊重しアドバイスを含め支援している。理・美容については職員がカットをしていて一層の信頼関係を築いている</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の体調を見ながら、可能な限り買い物・調理・後片付け等利用者と共にい食事の楽しみを持ってもらっている</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>毎日の晩酌をされる方、タバコを喫める方には量や本数、その時の健康状態に配慮しながら、又、その他好みに合わせそれぞれに対応しおやつ時等が楽しみとなるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意のない利用者には時間ごとに排泄の声かけを行いトイレでの排泄を支援している。脚力が低下し転倒の恐れのある利用者については、夜間のみポータブルトイレを使用し、誘導している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴して頂いているが一日おきの入浴が大半である。隣館から温泉を引いており、希望者および必要者には日曜日でも対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はリビングで皆と一緒に過ごされる時間が多いが、疲れたときはオープンスペースの和室や自室で休まれている。また猫と遊ぶのも癒しのときとなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には日常生活において掃除機かけ、床拭きのためのテーブルのイスの出し入れ、食材刻み、食器洗いや拭き上げ、収納、洗濯物たたみ等それぞれすすんでやっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、ホームで預かっている。力量のある希望者には対応しているが、殆どの利用者が預けていることで安心されている。		できる部分を大切に、可能な範囲で金銭を所持し、使ったり、支払ったりできる生活上の楽しみを支援する。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換の散歩や町への買い物、隣接の温泉館への買い物など可能な限り同行して頂き気分転換してもらうよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1、2回の外出計画をたて利用者全員で出かけ楽しく過ごしてもらっている。又、2号館と合同での外出も行っていて互いの交流を深めている。		少人数でも家族を交えての日帰り、1泊旅行など計画してみたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が手紙を書いて出すという要望はないがいつでも対応する準備はできている。又、電話をかけたいとの希望には取次ぎをし家族等との会話を支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問しやすい環境・雰囲気作りに努力しており、夜間でも気軽に訪問していただいている。面会に来られた来客者に対しては利用者と気軽に会話できるよう本人の居室に案内したり、あるいはリビングで全員で会話を楽しむことも多くなってきている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員は正しい認識をもっており全く行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関及び各居室とも施錠をせず、開放的な空間の中で生活して頂いている。夜間の戸締り施錠時間は居室は日没後、玄関は面会者のため遅くまで開放している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	建物内は見通しの良い造りになっていて、利用者の所在や様子の把握はできているが居室の掃き出し窓からの出入りが可能なため近隣まで出られたケースがあり、離所や危険防止に配慮している。		安全な生活を提供するために、職員間の連携、事業所全体の協力を得ながら、離所の可能性を常に意識し、事故防止に万全を尽くしていきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特に危険な物品は利用者の目の届かない場所に保管している。又、日常使用する物品については利用者の能力に応じ見守りの中使用してもらい、使用後は放置しないようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事業所全体及びGHで事故防止についての勉強会を行い防止に努めている。一旦起こった場合は再発防止に向け対策委員会を設けている。		すべてのリスクに対し、常に危機感をもち、発生後の適切な対応、防止法を全員で共有、確認する。一人ひとりの状態に応じた防止策に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	経験ある職員ばかりであり一応の応急手当は可能である。さらに事業所全体の勉強会を開き知識を深めている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	GH独自に昼、夜、想定しての避難訓練を定期に実施している。又、事業所全体の訓練や勉強会に参加している。		地域との連携において協力を得られるようであり、地元消防団との協力体制作りを働きかけたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時や本人の変調時など予想されるリスクを家族に説明し、拘束のない暮らしを大切にされた対応を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝10時に健康チェックを行い、必要時はこまめに再検も行っている。連絡事項は口頭での申し送りのほかノートに記入、重度化や入院を防ぐ努力をしている。健康状態の推移は個別の記録に残し変化や対応を検討している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケース記録に薬の作用、副作用が記された処方箋を綴り、用法・用量の把握に努めている。症状に変化が見られた場合は主治医に報告相談を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜の多い献立、必要量の水分摂取を心がけ、運動についてはラジオ体操や散歩、室内ゲームなど行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きや義歯洗浄、うがいを行い、義歯は夜間洗浄液に浸している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重の変化、ひとり一人の身体の状況に合わせ、職員全員で研鑽しあいながらバランスのよい食事を提供している。水分補給に関しても脱水を起こさないよう常に配慮している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入所前に感染症検査を家族に依頼し、インフルエンザについては利用者、職員とも毎年予防接種を行っている。衛生管理者が感染症対策の勉強会を毎月1回行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の定期的清掃、まな板、布巾の使用後の殺菌を行い、食材については新鮮なものを使用し期限切れは使用していない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには鉢やプランターに四季折々の草花を育て楽しんでいる。庭には樹木や地植えの花があり、菜園には種類の野菜を育てている。玄関の見通しもよく外来者が訪れやすい雰囲気である。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間TVの音量に気をつけ、又、朝日・夕日が入り込まないようにヨシズを立て眩しくないようにしている。玄関には植物を置きホール壁には季節に合った飾り物や利用者の写真等を掲示している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはホールにソファが3つ、和室と食事用のテーブルがあり利用者同士で座って雑談したり、疲れた時に寝転がったり、一人になることができる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には本人が使っていた家具類を持ち込んで頂くよう家族と相談し自分の部屋らしく思え安心して過ごせるようにしている。しかし居室内に家具、調度品があると邪魔になるからと居室に何も置かない利用者もいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気に気を配り臭いが淀まないようにしている。各居室には消臭コロンを置き、爽やかに感じるようしている。又、各居室やホールに温湿度計を置き室温調整を行い、厚着・薄着の利用者にはそれぞれ対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全面段差はなく廊下の両側、浴室、トイレには手摺を設置し安全に移動ができるようにしている。又、ホールにはソファを置き自由にくつろげるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には名前やマスコット表示して間違えて他者の居室に入らないようにしている。トイレにも(トイレ)と表示しわかり易く迷わないようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1号館と2号館の間のウッドデッキには利用者が楽しめるようにテーブルや長椅子を置き、互いに楽に行き来できる交流の場となっている。畑や花壇には季節を感じる花や野菜であふれ、視覚でも味覚でも楽しむことができている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・天然温泉100%の入浴が毎日可能。
- ・環境に恵まれている。
- ・職員全員が介護職として豊富な経験を有しており、柔軟な対応が可能。
- ・家庭生活において経験豊かな職員ばかりで、料理のメニューが多彩で上手。
- ・利用料が安い。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム グリーンヒルみふね2号館
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県上益城郡御船町木倉1720-6
記入者名 (管理者)	西川 八寿子
記入日	平成 19年 11 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>(明るく、楽しく、優しく)の理念に込められた限りない人間愛と、生きていく喜びや生きがいを幅広くサポートしていくことへの奥深さをふくんだ理念である。</p>	<p>職員一人ひとりが地域に対する理解を深め、地域住民としての認識を強化し利用者一体となり、住民としての役割を担って行く。理念を意識し共有することが、利用者に対する尊厳であることを再確認する。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>玄関に大きく掲げ毎朝のミーティング時に全員で唱和している。GH職員として又、一社会人としての心構え、姿勢を認識すると共に理念を日々の目標として意識し実践できるよう取り組んでいる。</p>	<p>日々のケア内容と、理念の持つ意味や整合性を改めて認識しあい、理念の共有と自らの業務・ケアについて振り返り方向性を見直す。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域の中での介護者教室、懇談会、運営会議等において、GHの運営や方針と共に理念について伝え理解をいただけるよう取り組んでいるが充分とは言えない。又、家族会や交流会の中で施設の目標とする理念を家族と共有していけるよう伝えている。</p>	<p>地域密着型施設とし、GHの役割、運営方針と共に、理念についての理解を得られるよう家族や地域の中で活動を広げる。</p>
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>GHの立地上に気軽に立ち寄っていただけるようなつきあいはできていない。日常的に行き来できるような交通支援や、顔馴染みになっていただけるような交流の場を積極的に推進していきたい。</p>	<p>気軽に立ち寄ってもらえる立地がないため、身近に声を掛け合うことは困難な状況であるが、地域との触れ合いを深めるため地区行事、会合への参加、リサイクル活動等の参加により顔馴染みの関係作りに努力したい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に加入し、回覧、会合参加、地域行事等参加するよう努力している。地域内から勤務している職員もいるため情報も得やすく回覧等も活用している。</p>	<p>個人的なつきあいは現状においては困難であるが、地域行事・地区会合・リサイクル活動への参加や、園児・児童との交流において、地域の一員として生活していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在実施しているが、まだ充分とは言えない。地区の高齢化状況を踏まえると、もっとお役に立てる何かがあるのではないかと考えている。地域とGHが協働して地域の方々の暮らしを支えられるような方策を考えていきたい。		認知症介護の発信拠点施設としての役割を踏まえ、経験や知識を活かし、職員の個性を発揮しながら、地域高齢者の生活の活性化や困り事の相談、介護者教室等、地域の会合を通しながら取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己・外部評価の意義は全員が十分に理解できており努力目標・改善項目については全員で検討を重ねながら、実現可能な事から改善の方向へと取り組んでいる。		外部評価改善項目について、事業所の特性を活かしながら、職員全員が意識し、サービス向上と自らのステップアップのための指針とし具体的に話し合い、取り組みをおこなう。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではGH運営全般における報告や自己・外部評価にの内容及び改善目標等について詳細に報告している。当GHの現状を知っていただき、協力体制作り賛同いただくと共に、いただいたご意見はスタッフ間に周知しサービス向上に努めている。		外部評価についての報告や質疑、今後の取り組み課題について活発な意見が得られるような進行をし、有意義な会議にしていきたい。議題についても多岐にわたる内容を計画していきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	これまで気軽に行き来することに躊躇する面があったが、運営推進会議をきっかけとして市町村担当者との情報交換等が以前より図れるようになってきている。今後双方の行き来する機会をさらに増やし、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。		運営推進会議の開始により、市町村との関わりを深めるための良い手段が得られたと思う。担当者や、地域包括センターとの連携が、サービス向上のための重要な手がかりとなり、連携強化に取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	県内、又上益城部会等において研修会に参加している。現在対象となる利用者はいないが職員全員の学びを深めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や身体拘束についての研修会参加や、勉強会を開くことにより職員全員が周知しており、基本的な事項として虐待防止を実施できている。家族にも認知症の理解をいただくことで防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項や契約内容、GHでの生活全般の説明を充分に行っている。家族の質問等に対しても入居前後随時丁寧に対応し理解を得ている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉をしっかりと受け止め、意見や苦情については本人と話す時間を充分にとっている。思いに添った生活をできることを大切にしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時及び必要と思われる時は、報告・連絡・相談を随時行っている。特に面会時はできる限り時間を取り、近況報告を行い、情報共有に努めている。金銭管理については、毎月収支報告を行い、サインをいただいている。</p>		<p>家族との連携において詳細な報告、必要な連絡、相談等随時行うと共に、コミュニケーションを大切にしながら、利用者・家族・職員の柔軟な関係作りによる温もりの有る生活を提供したい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>これまで、運営全般に関する意見は殆どいただけていないが、家族会、又個々の話し合いの中でお互いの立場を排除した自由な発言が得られる関係作りを行っている。</p>		<p>家族会交流の場や懇親会、職員・家族との研修旅行、利用者・家族・職員三者の交流を計画し意見を得る機会としたい。又、一泊旅行を家族と相談しながら実現したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>施設全体での勉強会、GH勉強会、主任会議等で、運営に関する現状や、今後の展望について職員全体が把握しており、それぞれの貴重な意見や提案については反映できていると思っている。</p>		<p>運営全般において、職員の発想や提案を反映することは、一人ひとりの職員の奮起、向上となるため、今後も自由な発言のできる環境を大切にしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>月間行事や予定外の催事、利用者の状態変化、ご家族の申し出があった場合等、随時の話し合いを行いながら常に柔軟な勤務調整を実施している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>特養の併設施設であるため、若干の異動はあるが個人的な理由による退職はほとんどない。利用者へのダメージは無く、利用者への馴染みの関係は保たれている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成19年度より向上計画制度を導入。3ヶ月毎にGH1号館、2号館で目標を全員で立て、進捗状況をお互いに確認し合っている。	目標達成のための全員で努力する姿勢と、職員間の良い関係作りを更に強化していきたい。又、施設内外の研修参加により自己啓発を促していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城郡内のGH連絡協議会において2ヶ月に一度集会を設けている。情報交換を行ったり、地域周辺マップを作成したり、懇親会を開いたり等々意欲的に取り組んでいる。相互訪問も行い、良いネットワークが作られているのではないかと考えている。	GH上益城部会に定期的に参加し情報交換を行ない日々の取り組みの中で活かしている。町内の他のGHとの交流する機会をさらに増やし、近所であるがゆえのメリットを生かしていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	町主催で定期的開催されている職場対抗ソフトボールやバレーボール大会に参加し、2年に一度の職員慰安旅行を行っている。職員一人ひとりのヒアリングを年に一度実施しているが、必要に応じて話し合う機会も設け、それぞれの悩み等の把握に努めている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	サービス向上計画における目標シートによりそれぞれがよい点、悪い点、改善しなければならない箇所を把握することで自己をより高められる体制を作っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に訪問調査を行い、本人や家族の思いを傾聴し、何を必要とし、どのような生活を望んでいるのかを見極め、入居後の生活に反映・実現できるよう受け止めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人・家族の現状を把握し、その中での問題や希望について話し合いを充分に行い、安心して利用できるためのプロセスを重視している。又、信頼関係につながる傾聴する姿勢、雰囲気作りを大切にし、良い関係作りに努力している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・担当ケアマネ・家族・母体施設代表者と共に話し合いを持ち、又、関連施設との連携を取りながら、まず何が必要かを見極めながら総合的に対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の体験利用や、家族と共にホームの様子を知るための見学を行い、一緒にお茶の時間をすごしていただいたり入居後の生活に馴染んでいただけるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	サービスを提供する立場だけでなく、人と人の関わりを大切にし職員も一緒に楽しみ、思いに共感したりしながら利用者、職員の間関係作りを重視している。全ての活動の中で共に喜怒哀楽を感じることが利用者を知り自分達を知ってもらうことだと考える。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族、職員が良い関係を築くことが本人にとって最も良い環境であり介護を実践していくための不可欠な条件である。利用者本人、家族、職員の良好な関係を維持し気軽に話し合える体制を築いている。		利用者のより良い暮らしのために、家族との関係は最も大切である。悩みに共感したり、喜んだりしながらも節度のある関係と、信頼を大切にし、気軽に話し合える関係作りにも今後も努力して行く。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	長年の家族間の関係を把握し、家族のそれぞれの思いを理解し、本人にとってより良い家族関係が維持できるようなサポートが大切だと思っている。出過ぎず、控え過ぎずを考慮しながら良い関係作りを行っている。		認知症の進行に伴い、家族関係が希薄にならないよう、行事への参加や、可能な範囲での外出、外泊の協力を得る。又、家族、利用者間のより良い関係作りのパイプ役として関わって行きたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域商店への買い物や、地区行事に参加することによる顔見知りの方々とのふれあいを大切にしている。又外出時は馴染みの場所や知っている町並みを通ったりして感情へのはたらき掛けを行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりが家族の一員としていたわり合う雰囲気を大切にし、職員の関わりを通しそれぞれの存在感を感じていただくことも大事な役目であると思っている。利用者同士の関係を把握し、グループ活動を行ったりしながら良い関わりが維持できるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族からの問い合わせ等に関してはもちろんのこと、その後も友好的な関係を保っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身体の状況に関する心配、家族のこと、居室の様様替え、片づけ等本人の不安や希望に対し十分に話し合いをもちながら対応している。受容し共に行動、共感することを大切にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のこれまでの生活全般の情報や好み、嗜好に至るまでを全体像を理解するための必須事項として常に新しい情報収集に努めている。		これまでの関わりの中で知り得なかった、利用者の細かい情報把握に更に努めながら一人ひとりの暮らし方に沿ったサービス提供の向上を目指して行きたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の健康チェック、心身の健康状態に配慮しながら変化を見極め、一人ひとりの残存機能を最大限に活かしながらできることへの関わりを職員全員が周知し実行している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や関係者をふくめた話し合いは実施できていないため今後の検討課題である。計画作成については本人の意向、希望を察知し家族や関係者の情報を活かすと共に職員間の情報を反映したプラン作成を行っている。		職員全員がケアプランの重要性を再確認し、本人の状態の変化に対する気づき、アイデアや意見を反映し、利用者の生活向上と、職員間のお互いのケアの指針として活かして行く。今後、家族への話し合い参加を願い、意見を反映したプラン作成に努める。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に関係なく、必要に応じ随時話し合いを行い家族にも連絡・相談を行っているが、新たな介護計画の作成には至っていない。		現状に即した、プランの見直しと新たなプラン作成を実施して行きたい。利用者の今を反映した生きたプラン作成を行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個人ケースに、日中・夜間帯を色分けして記録している。職員間の連携を充分にとり統一した介護が実践できるよう申し送り帳の活用もおこなっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のその時々々の状況、職員の勤務体制と連動しながら可能な限り要望に沿った柔軟な対応を行っている。		自由に活動でき、柔軟な対応が可能なGHの特性を更に活かし、家族の要望や利用者の思いをできる限り実現していきたい。(墓参り・自宅訪問等)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の個人的関係による民生委員の訪問や、職員、利用者等の関係するボランティアの慰問を得たりしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の経済的な事情によりGH利用が困難となった利用者について家族・事業所を含めた話し合いを行い、特養へ移動していただいた経緯がある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ地域包括支援センターとの協働はできていない。		今後努力すべき課題である。職員全員が地域包括支援センターについての知識を深め、必要に応じ相談したり情報を提供できる関係作りを行いたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力病院外においても、Drとの情報交換を行ない適切な医療が受けられる体制ができています。希望時の受診、急変時の受診、定期的な回診等、常に医療機関との連携を重視し、特別な場合を除いては職員が受診支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の協力病院と連携をとり、必要に応じた受診を行っている。担当Drと家族を含めた話し合いの場はいつでも設けられる体制がとれている。必要な指示助言もその都度受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	GH職員として看護スタッフが配置されており、また、母体施設との看護師とも連携し、必要に応じ応援を得ている。日常の変化にも迅速に対処でき、的確な対応に努めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院開始から退院までの過程のみでなく日常において、看護師を中心に病院関係者との情報交換による連携に努めている。又入院前後の病状経過についてはDr・家族・職員による話し合いの場を作り現状把握と情報共有に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が予想される場合は、事前に家族、かかりつけ医、施設の話し合いを設け検討を重ねながら状況に即した対応を実施し、方針を共有している。		疾病については、現在かかりつけ医、母体施設と連携を図りながら対応しているが、今後予想される重度化に対しては、三者の十分な話し合いのもと、方針を共有し誠実に対応していきたい。終末期にむけては、家族の意向を大切に、主治医の指示を得ながら、今後の方針についての話し合いを具体的にしていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の状態の変化により施設内でできること、出来ないことを見極め、看護師を中心に家族、かかりつけ医との連携をとりながらチームケアを実践している。介護と医療の的確な見極めによる本人へのより良い生活支援は、重視すべき課題であると思っている。		かかりつけ医との連携による終末期の暮らしが、利用者や家族にとってより良い暮らしとなるために話し合いを重ね、GHにおいて出来ることの支援を見極めながら、重度化、終末期にむけた取り組みを話し合っていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化によるダメージを最小限に防ぐため、事前の訪問による生活状況の把握、本人に関わる関係者との情報交換を行なっている。異空間に対するダメージを防ぐための居室作りや、寄り添うことによる心の安定を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの状況に合った声掛けを行い、その場の雰囲気や活動内容にあった対応を行っている。入浴や排泄については特に本人の心理状態、表情を見ながら気持ちに添った対応に心掛けている。個人情報に関しては、守秘義務の重要性を家族、スタッフ間で了承している。</p>		<p>常にGH職員としての資質向上を意識し、尊厳と思いやりのある関わりを基本とした誠実な対応のできる職員になりたい。高齢者に関わる上での当然の職業マナーとして、自分の言葉に責任を持ち、お互いを高めあっていける職場にしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自己決定や好みに合った生活スタイルを本人との会話の中で働きかけたり、利用者の意思に伴った対応を行っている。自分の思いを最大限に生かした納得した安心のある暮らしへの働きかけを行っている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の身体状況の低下に伴い、活動量も以前に比べ減少している場面もあるが、日常の中で一人ひとりの思いや希望に添えるような対応を行っている。また決まり事や職員サイドの都合を優先せず臨機応変に支援している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>みだしなみについては、好みの服や小物等本人の意思を尊重し自由に選んでもらったり、職員がアドバイスをしながら個性を尊重している。尚、理美容については、職員による染髪、カットを実施しており、その時間を活かした利用者との交流や会話に努めている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事のメニューは利用者からの希望を聞きだすことが充分とは言えないが、好みや得意な事、できる事への力を発揮できるよう利用者、職員と一緒に準備、食事作り、片付け、掃除等を行っている。</p>		<p>作ること、食べることの楽しみを共有することで、より良い関係作りに努めると共に、出来ること、得意なことをサポートしながら生活の快を大切に支援して行きたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲酒、喫煙習慣のある利用者に対しては、本人の要望に添いながら楽しめるよう支援している。又、場所、時間等にも配慮しながら本人の嗜好への楽しみを大切に、日常的に支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意の無い利用者については、時間毎の声掛けトイレ誘導を行っており、一人ひとりの力やパターンに合った排泄支援を実施している。居室内での排泄や不潔行為の減少を図るため、本人の行動への見守りと随時の誘導、状況把握に努め職員間の連携を重視している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じた入浴体制をとっているが、当ホーム横の温泉施設より温泉を引いており、毎日入浴している方が多い。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの利用者に合った作業や活動を共に行い日中の生活が退屈なものにならないように、又、居室の温湿度、寝具等の調整により快い睡眠が得られるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴や持てる力、能力を活かした支援を行ない喜びや楽しみにつなげている。役割の定着も見られ一日が円滑に流れるような自主的な行動がとれるようになってきている。一人ひとりが何らかの形で関わりを持ち、張り合いのある生活が送れるような支援を行っていている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、希望や力量が揃った一部の利用者は所持しているが事務所預かりの方もいる。、買い物を行う際は本人の希望により財布を持ち、自ら支払いをできるよう支援している。		できる部分を大切に、可能な範囲で金銭を所持し、使ったり、支払ったりできる生活上の楽しみを支援する。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周囲に広大な敷地を有しており、四季折々の花々や風景が楽しめ、散歩に出かけたり、地内の温泉や物産館等へも毎日買い物に出かけたりしている。地区内の神社へのお参りや、町内、町外の買い物等、利用者の思いや状況に添うことができている。		利用者家族からの自宅への招待呼びかけも有り、本人の希望に応じ、実施して行きたい。今後日常の外出行事同様、個別の自宅訪問等臨機応変に取り組んで行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事の中で思考を凝らしながら、全体活動とし普段行けない所への外出を実施している。又、家族の面会時等に外出したり、買い物、食事に出掛けたりする機会も多く、本人にとっての楽しみ事として支援している。又、利用者の希望に応じドライブや外出を臨機応変に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りに関する代筆、代読を行ったりしている。電話は本人の希望に添い、日常的に柔軟に対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問しやすい環境、雰囲気作りに努力している。出迎え、見送り等接客マナーに心掛け、来訪者に対し節度を持ち、常に変わらない態度で対応出来るよう努めている。又、四季の草花を玄関周りに植えたり、室内に野の花や花壇で咲いた花を置き、心地よい空間作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、全員が認識を持っており、認知症介護に携わるスタッフとして正しく理解し全く行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関及び各居室共施錠をせず、開放的な空間の中で生活して頂いていいる。夜間の施錠時間は、居室は19時、玄関は面会者のため更に遅くまで解放している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	建物の構造上、見守りを行ないやすい造りになっているため、一人ひとりの位置や様子は把握できているが、9室の内5室は居室から自由に出入りできるため近隣迄出て行かれることもある。離所や危険防止に常に配慮している。		職員間の連携、事業所全体の協力を得ながら、離所の可能性を常に意識し、事故防止について万全を尽くしていきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員間の話し合いを行い、入居者に危険の及ぶことの無いような場所での保管をおこなっており、居室や持ち出し可能な場所への配置はしていない。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書にまとめ回覧し、更に職員間で話し合いを行い情報を共有すると共に、一人ひとりに合った危険予知、事故防止について随時検討を行っている。又、毎月2回の事故防止委員会を実施し事故発生、再発防止につなげている。		全てのリスクに対し、常に危機感を持ち、発生後の適切な対応、防止法を全員で共有、確認する。一人ひとりの状態に応じた防止策に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	経験を有した職員ばかりであるため、応急手当は一応可能である。更に勉強会で蘇生法について学びを深めている。		継続的に研修を積み、確実な対応法を実践出来るよう更に学びを深めたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームのみでなく、事業所全体での勉強会や訓練に参加したり、GH独自の避難訓練を定期的実施している。夜間の訓練においては、職員連絡網により招集し、改善策について全員で検討している。地域との連携においては協力を得られる体制が出来ている。		地域密着型施設とし、運営推進会議や地域会合の中で協力体制作りを働きかける。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	当GHの運営方針や生活全般におけるリスク発生の可能性について理解を得るため、重要事項の中で家族や関係者に十分に説明し理解を得ている。GHのオープンな生活から起こり得るリスクを利用者個々の状態から検討し対応している。		常に現状を報告しながら、予測されるリスクの発生につき話し合うと共に、当GHの理念に添った威圧感の無い生活を支援していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時の健康チェックを行ない、一人ひとりの状態により、必要時は随時再検し早期発見、改善、悪化防止に努めている。状態変化については看護師と連携を取り速やかな対応に努めている。		変化の早期発見と迅速な対応を基本とし、報告、連絡、相談を徹底する。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケース記録に薬の作用、副作用が記された処方箋を綴り用法、用量の把握に努めている。症状に変化が見られた場合は主治医に報告、連絡、相談を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜の多い献立、1000cc以上の水分摂取を心掛けている。運動については、散歩、室内ゲーム、室内外の軽作業等行っている。把握が必要な利用者については、それぞれに合った排泄支援を実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、一人ひとりの口腔状態を観察し支援している。義歯は夜間、洗浄液に浸している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定を毎月行い、体重変動に気をつけている。栄養バランスについては野菜を多く取り入れた献立に工夫を凝らし、水分も一日1000cc以上摂取出来るよう取り組んでいる。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎月2回検討会を実施。定期的に事業所全体の勉強会に参加し、発生時のシミュレーションで対処法を学んでいる。現在も以前の発生を教訓とし早期の勉強会を行っている。		今季、冬場の発生に向けた研修を重ね、事業所全体が発生時マニュアルに添った対処法を実行している。GHにおいても感染防止策として早期より家族への呼びかけ、文書送付を実施している。重ねて利用者、職員の体調管理を強化して行きたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内の食品のチェック、調理器具類の管理として常にハイター除菌、高温乾燥、天日乾燥を行っている。食材、調理器具の衛生管理は年間目標とし職員全員で周知取り組んでいる。		集団調理の場としての、管理を徹底し、食中毒を起こさないことを前提とし、年間を通し最善の注意をはらい調理に携わる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲には、季節の木花を植えたり、プランターを置いたりし、利用者や来訪者にとって親しみやすく、安心して出入りが出来る雰囲気作りを行っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、台所、トイレ等季節感や温もりの有る雰囲気を大切に心地よく過ごせるよう配慮している。又、壁には手作りの作品や写真を掲示し、利用者や来訪者のくつろぎ空間となっている。夏場の直射日光や西日対策として、各居室に葦を使用し対応している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ウッドデッキ、玄関前のポーチ等、歌ったり、会話を楽しんだり、煙草を吸ったり、日光浴をしたりと、思い思いに過ごされている。又、気の合った利用者同士居室で自由にくつろいだり、それぞれが楽しみの有る生活空間作りを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの好みや生活スタイルに合った家具の配置、馴染みの生活用品等本人、家族と相談しながら本人にとっての心地よい空間となるよう工夫している。入居時、新しく購入されることも有り、馴染みの安心感が得られない場合もある。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気温との調和を考慮し、夏場、冬場の温度調節は特に気を付けている。又、季節の変わり目には、体調の変化に充分配慮しながら、利用者の状態にあった室温調整を行っている。居室の臭気防止、換気については、本人と話し合いながら細めに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、リビング、風呂場等、手摺を設け、内部はバリアフリーになっており安全に生活が送れるように工夫している。風呂場、脱衣場に関しては、一人ひとりの身体状況に合わせて、手摺設置箇所を増やし、安全に入浴出来るよう検討、工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の状態を見ながら、必要に応じ解りやすい表示を掲示したり、居室内の模様替え、最小限の範囲での居室変更等行い一人ひとりの状況を総合的に判断し、自立した生活出来るよう職員全員のアイデアを活かしながら工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の四方には、庭や空間があり、両棟が自由に行き来できるように間にはウッドデッキを設けている。玄関前のスペースにはベンチを置き、利用者同士の交流の場として活用している。自然環境に恵まれたメリットは、利用者の快適な暮らしと、楽しみ事につながっている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・天然温泉100%の入浴が毎日可能。
- ・環境に恵まれている。
- ・職員全員が介護職として豊富な経験を有しており、柔軟な対応が可能。
- ・家庭生活において経験豊かな職員ばかりで、料理のメニューが多彩で上手。
- ・利用料が安い。